

平和教育授業研究会（ペグ）第11回

テーマ「戦争被害と加害を現在の問題につなげる平和学習」

3月20日(土) 午後1:30～5:30

予定

- (1) はじめに
- (2) プレゼン
- (3) 報告「戦争を伝える教育」についての報告
報告 ストーリーテリング
- (4) 雑談：各自の平和教育実践交流「平和教育に関して」
- (5) 戦争を伝える ロールプレイ
- (6) 振り返り
- (7) 連絡事項

(2) プレゼン「身近な題材で戦争を伝える」

①地図記入作業

②「京都教育大学と戦争」

○京都教育大と戦争（簡略年表）

- 1876（明治9）年6月 京都府師範学校が創立。
- 1908（明治41）年4月 師範学校女子部が京都府女子師範学校として独立。
- 1925（大正14）年5月 歩兵第9連隊が藤森に駐屯を始める。
- 1935（昭和10）年 女子師範学校、同付属小学校が伏見区桃山に移転。
- 1937（昭和12）年7月7日 盧溝橋事件により日中戦争の開始。
- 1941（昭和16）年4月 小学校は国民学校に改称、教科を統合再編成した。
- 1941（昭和16）年12月8日 真珠湾攻撃により太平洋戦争の開始。
- 1943（昭和18）年6月 「学徒戦時動員確立要綱」が閣議決定される。
- 1944（昭和19）年12月 歩兵第9連隊はフィリピンのレイテ島で米軍との戦闘により消滅。
- 1944（昭和19）年6月 「学童疎開推進要綱」を閣議決定される。
- 1945（昭和20）年3月 「決戦教育措置要綱」により国民学校初等科を除くすべての学校が1年間授業を停止、生徒たちを軍需工場などに動員する事を決定。
- 1945（昭和20）年3月25日 京都師範女子部付属校の学童疎開に出発。
- 1945（昭和20）年7月29日 舞鶴空襲で京都師範学校の動員学徒の9人が死亡。
- 1945（昭和20）年10月 京都師範女子部付属校の学童疎開の終了。
- 1949（昭和24）年5月 京都師範学校、京都青年師範学校を包括して、京都学芸大学となる。
- 1951（昭和26）年3月 京都師範学校、京都青年師範学校が廃止された。附属小学校・中学校及び幼稚園が設置された。
- 1957（昭和32）年3月 桃山分校が廃止された。
- 1957（昭和32）年9月 大学は、京都市北区小山南大野町から伏見区深草藤森町に移転した。
- 1965（昭和40）年4月 附属高等学校が設置された。
- 1966（昭和41）年4月 京都学芸大学は京都教育大学に、学芸学部は教育学部に改められた。
- 1968（昭和43）年4月 『京都歩兵聯隊跡』の碑が建立される。

○『京都歩兵聯隊跡』の碑（京都市伏見区・藤森神社境内） 碑文

藤の森神社東側の台上は 50年にわたり郷土歩兵聯隊が駐屯し 10万をこえる将兵が苦楽を共にし 生死をを誓い 日夜修身練武に精進した深草兵營の跡である

歩兵第9聯隊は明治建軍に当たり 明治7年に創設せられて大津にあった

これを母隊として明治 29 年歩兵第 38 聯隊が編成され 翌 30 年 7 月この兵舎の竣工をまってこの地に屯した

大正 14 年 5 月 軍制改革により歩兵第 38 聯隊は奈良に移駐 以来歩兵第 9 聯隊主力がここに駐屯することになった

歩兵第 9 第 38 両聯隊は 明治 37・8 年の日露戦争に出征 第 4 師団に属して南満洲の金州・南山・遼陽・奉天の諸会戦に参加して赫赫たる武勲をたてた

満洲事変にさいしては 京都第 16 師団の隷下にあつて北満の警備に任じ ついで昭和 12 年支那事変勃発するや北支・中支に転戦し 南京城を陥れ 徐州に戦い 長駆大別山を突破して武漢攻略戦に不朽の戦績をのこした

歩兵第 9 聯隊は 昭和 16 年大東亜戦争の劈頭比島に敵前上陸してバターン半島を席捲 マニラ攻略の後主力をもってレイテ島を守備していたが 優勢なる米軍主力の反攻を受け死闘数十日 ついに聯隊長以下全員軍旗とともに玉碎し光輝ある聯隊の歴史を閉じた

時 昭和 19 年 12 月 8 日

歩兵第 109 聯隊は 昭和 13 年この地において編成され中支に出動

長期にわたり揚子江中流地域の警備に任ずるほか 湘江・芷江の激戦に参加し 幾度か敵の重围に陥りながらよく奮戦力闘を重ね 終戦とともに矛を収めて内地に帰還した

このほか大東亜戦争の戦局いよいよ熾烈を極めるにしたがい この兵営（通称中部第 3 7 部隊）において或は動員され 或は兵員を補充された諸部隊は数多くあつたがそのうち主なものを列挙すれば インド インパールに進攻した歩兵第 60 聯隊（祭） ビルマの各戦線に苦闘した歩兵第 128 聯隊（安） 沖縄にその最期を飾った歩兵第 63 旅団（石） ミンダナオ島に戦った独立守備歩兵第 35 大隊（幸） 本土防衛に任じた護京・比叻・山城諸兵団の歩兵聯隊等である

顧みれば これら諸隊の将兵がこの兵営をあとに出陣するにさいし 戦勝と武運の長久を祈願したのはこの藤の森神社であつた

今や時は移り星は流れて幾春秋 かつての勇壮なる軍歌の響きも絶えて久しく 懐しき兵営の面影

も過去の帳^{とばり}のうちに消え去らんとしている

しかしながら 祖国を愛し 祖国を護り 進んで国難に殉じた郷土部隊の栄光ある歴史と名誉ある伝統とは永遠に後世に伝えられるべきである

時あたかも明治百年を迎えるに当たり ここに京都歩兵聯隊関係者一同あい図り 由緒深きこの地を史跡として先人戦友の遺勲を顕彰して長くその功を讃え 陣没した幾多の英霊を慰めるとともに 国運の隆盛と世界平和とを祈念して思い出多き聖域にこの碑を建てるものである

昭和 43 年 4 月 18 日 京都歩兵聯隊跡記念碑建設会

（５）ロールプレイ：過去の戦争を今につなぐ

①子どもA「戦争はみんなが被害を受けるので二度としてはいけない」

- 広島と長崎に原爆が投下されて一瞬にして街が破壊され、たくさんの人が亡くなったと学校で習った。
- 第二次世界大戦では、東京や大阪で、神戸や名古屋でも空襲により焼け野原になって家を失い、多くの人が死んだので、第二次世界大戦では日本はものすごい被害を受けたと思う。
- 戦争をしたのが間違っただけであれば、当時の大人たちはどうして戦争を止める事ができなかったのか？
- 戦争を防ぐために、いま私たちが何ができるのかを知りたい。

②保護者B「昔の戦争よりも現在の問題の解決が大切である」

- 現在は経済不況で、私の給料は少しも増えない。また、1年間に3万人もの自殺者がいる。学校ではいじめがあり、不登校で学校に行けない子どもも多い。
- 現在の日本は犯罪や事件が多く、平和といえない状況にあり、それを変える事がまず大切である。
- 戦争については、学校で先生が子どもたちにしっかりと教えてくれているので、親がわざわざ話す必要はないと思う。
- 中国は南京事件（1937年）で30万人が虐殺されたというけれども、そんなにたくさんの中国人を日本兵が殺したのでしょうか？

③教師A「戦争を教えるよりも、子どもたちに教えたことが他にある」

- 平和教育が重要な事はわかるが、他にも「学力向上」や「環境教育」や「情報教育」などもっと私が取り組みたいものがある。
- 平和教育で日本の戦争加害ばかりを教えると、子どもたちが暗く元気が無くなる様に思う。
- 教室で仲良くすることや、心の教育や、多文化理解や国際交流とかを進めた方が子どもたちにはよい影響を及ぼすのでは。
- 私は戦争について経験していないので、戦争の何を子どもに話したらよいかわからない。

④教師B「子どもたち自身が学ぶ平和学習にしよう」

- 平和教育では、戦争の被害を伝えると子どもたちは戦争の残酷性や非人間性を理解しやすい。
- 子どもたち自身に、戦争について気づかせ考えさせる工夫をすると、子どもたちが生き生きと学べる平和学習になる。
- 広島・長崎、沖縄についての平和学習の中で、戦争の被害面だけでなく、戦争加害の部分について教える事もできる。例えば、朝鮮人被爆者の問題、沖縄では住民の集団自決の問題などがある。
- 戦争が、実は今の自分の生活に関わりがあるのだと子どもたちが気づけば、戦争をなくすためにはどうすべきかを、子どもが考え始める。
- 教科書に書かれていない戦争の歴史や事実はたくさんあるので、子どもたちがそれを知り、当時の社会の様子を理解することができる。

⑤戦争体験者C「戦争の時代には戻りたくない」

- 戦前の小学校では、お国のために自分の命を捧げることが、日本人として最も尊い生き方と教えられた。
- 自分が小学生の頃、天皇は神様、アメリカやイギリスは鬼、日本はアジアの先進国、中国人や朝鮮人は日本人よりも下という考え方をしていた。
- 戦後になって、日本の兵隊がアジアで悪い事をやっており、大本営発表（軍隊による広報）は「勝った勝った」と嘘ばかりで、私たちはだまされていたことを知った。
- 戦争中は、小学生にまで軍隊式のやり方で行進や挨拶をさせ、戦争に駆り立てようとしており、あ

んな時代に戻りたくない。

○日本人の死だけでなく、戦争をしていた相手の国にどれだけ犠牲者を出してたかも考える必要がある。

⑥中国人D「戦争への反省が必要である」

○日本の子どもたちは、日本が第二次世界大戦での一番の被害者だと誤って認識している。

○日本には南京虐殺を否定する政治家がいるのをニュースで聞くと、日本に対する信用がなくなる。

○日本は第二次世界大戦の被害者であるが、加害者でもある。日本では戦争の加害責任をどういう形で、子どもたちに伝えているのですか？

○日本の平和教育では、日本の加害責任はそんなに強調されていない。日本の子どもたちが戦争加害を知らないのであれば、将来中国と戦争になったら、中国がまた戦争被害をうけるかもしれない。

(6) 振り返り

表1 平和教育で取り上げている題材（兵庫 2005）（複数回答）

題材	小学校	中学校	全体 (%)
* 広島・長崎の原爆	579 (82.2)	207 (71.9)	786 (79.2)
人権・同和問題	467 (66.3)	197 (68.4)	664 (66.9)
* 空襲による被害	449 (63.8)	98 (34.0)	547 (55.1)
日本国憲法	347 (49.3)	83 (28.8)	430 (43.3)
* 沖縄戦	247 (35.1)	153 (53.1)	400 (40.3)
クラス内の対立の非暴力的解決	295 (41.9)	93 (32.3)	388 (39.1)
在日外国人との共生	247 (35.1)	135 (46.9)	382 (38.5)
環境の保護	270 (38.4)	94 (32.6)	364 (36.7)
国際連合の役割	285 (40.5)	58 (20.1)	343 (34.6)
* アジアへの戦争加害	236 (33.5)	87 (30.2)	323 (32.6)
開発途上国への援助	121 (17.2)	58 (20.1)	179 (18.0)
日の丸・君が代	100 (14.2)	14 (4.9)	114 (11.5)
イラク戦争	76 (10.8)	25 (8.7)	101 (10.2)
「反日」問題	64 (9.1)	22 (7.6)	86 (8.7)
自衛隊の海外派遣	54 (7.7)	24 (8.3)	78 (7.9)
「北朝鮮」との関係	44 (6.3)	21 (7.3)	65 (6.6)
* 軍慰安婦問題	5 (0.7)	10 (3.5)	15 (1.5)
その他	12 (1.7)	7 (2.4)	19 (1.9)
%の母数(回答数)	704	288	992

注1：質問文は「あなたの学校では、平和教育に次の内、どの題材を取り上げていますか。」

注2：*の題材は、過去の戦争題材を示す。

出典：村上 2009

表2 扱われる戦争題材の内容（兵庫 2005）（複数回答）

戦争題材	小学校	中学校	全体
* 祖父・祖母の戦争体験	547 (83.5)	101 (40.9)	648 (71.8)
* 学童疎開の様子	282 (43.1)	62 (25.1)	344 (38.1)
* 地域住民の戦争体験	278 (42.4)	59 (23.9)	337 (37.4)
* 戦中の子どもの空腹体験	204 (31.1)	45 (18.2)	249 (27.6)
在日米軍基地	108 (16.5)	69 (27.9)	177 (19.6)
対人地雷禁止運動	105 (16.0)	66 (26.7)	171 (19.0)
難民問題	86 (13.1)	82 (33.2)	168 (18.6)
自衛隊の海外派遣	71 (10.8)	45 (18.2)	116 (12.9)
* 生徒の勤労働員の体験	70 (10.7)	30 (12.1)	100 (11.1)
* 地域にある戦争遺跡	55 (8.4)	21 (8.5)	76 (8.4)
* 墓碑銘調べ	46 (7.0)	7 (2.8)	53 (5.9)
%の母数(回答数)	655	247	902

注1：この設問に対する回答率（902/1000）は90.2%と9割である。

注2：*の題材は、過去の戦争題材を示す。

出典：村上 2009

○戦争被害と戦争加害

表 3 戦争加害の内容

加害の時代と場所		加害の内容
日本 の 過 去 の 戦 争	内地 (現日本領土)	天皇制軍国主義教育による国民の締め付け（思想教育など） 政治犯の投獄・拷問と虐殺 外地からの強制連行と強制労働、植民地出身者に対する偏見と差別
	植民地	皇民化政策（日本への同化主義） 日本語使用への強制 神社参拝の強要
	国外 (占領地など)	近隣諸国への侵略戦争 南京事件、平頂山事件（住民虐殺） 連合軍捕虜の虐待 強制連行と強制労働、食料や物資の徴用 生物・化学兵器の生産と使用や人体実験
現在の紛争と戦争		かつての人種隔離政策（南ア）、テロ攻撃 人種・民族・宗教的差別、ジェノサイド（民族浄化） 兵器（対人地雷、クラスター爆弾） 大量破壊兵器の製造と保持、兵器による環境汚染、紛争による飢餓 紛争による難民の発生

○教育方法（例）

- ①歴史教育において、自国が行った戦争を、歴史教科書を用いて、先入観を抑えて史実を教える。
反省的・批判的に日本の戦争被害と加害の歴史を教え、被害者と加害者の双方向の視点から歴史を客観的に見る力を養う。それにより、反戦平和的意識を形成する。
- ②政治教育において、戦争加害について考察を深め、悲惨な戦争被害や残酷な戦争加害に国民を追い込んだ政治責任を明らかにする。政治的洞察力を深めることにより、戦争に追い込まれない政治的態度と行動力を育成する。
- ③ナショナリズムを抑制して、平和形成力として、子どもたち自身が自国を批判的に見る力を育てる。戦争に導く政治状況や国際関係を作らないために、平和な社会の形成や友好的な国際関係を形成する平和志向的態度（向平和態度）を養成する。

○アンヌ・モレリ『戦争プロパガンダ 10 の法則』2002

- 1 われわれは戦争をしたくはない
 - 2 しかし敵側が一方的に戦争を望んだ
 - *3 敵の指導者は悪魔のような人間だ
 - 4 われわれは領土や覇権のためではなく、偉大な使命のために戦う
 - 5 われわれも誤って犠牲を出すことがある。だが敵はわざと残虐行為に及んでいる
 - 6 敵は卑劣な兵器や戦略を用いている
 - 7 われわれの受けた被害は小さく、敵に与えた被害は甚大
 - *8 芸術家や知識人も正義の戦いを支持している
 - *9 われわれの大義は神聖なものである
 - *10 この正義に疑問を投げかける者は裏切り者である
- （注：*は、教育の戦争責任に含まれるもの）

（７）連絡事項

○今後の予定 8月23日（月曜日）

「平和教育学研究会例会（関西開催）」

内容：東京地区と関西の平和教育研究者・実践者の交流、読書会、研究報告会

ホームページ（平和教育学研究会）<http://www.ngo-npo.org/peace-education/>

○参考資料

アンヌ・モレリ 2002『戦争プロパガンダ 10 の法則』草思社

池田一郎・鈴木哲也 1996『京都の「戦争遺跡」をめぐる』つむぎ出版

九津間保治 1996『語り伝える京都の戦争 1 学童疎開』かもがわ出版

九津間保治 1996『語り伝える京都の戦争 2 京都空襲』かもがわ出版

上原育苗・幣原有希 2009『平和を発信する若者たち』平和教育シリーズ no.2 京都教育社会学研究室。

「記憶と表現」研究会著 2005『訪ねてみよう戦争を学ぶミュージアム／メモリアル』岩波ジュニア新書

熊谷伸一郎 2009『私たちが戦後の責任を受けとめる 30 の視点』合同出版

ケン・ベラー ヘザー・チェイス著 2009『平和を作った世界の 20 人』岩波ジュニア新書

小松太郎 2006『教育で平和をつくる－国際教育協力のしごと』岩波ジュニア新書

高見祥一 2008『平和ミュージアムに行こう』京都教育大学教育社会学研究室

長浜功 1984『教育の戦争責任』明石出版

『西山だより：京都市師範学校女子部附属国民学校集団疎開の記録』1986 年

布川康子 2000『あの戦争を伝えたい』かもがわブックレット 134

メリーウィン・アシュフォード著、（松井和夫監訳）2008『平和へのアクション 101+2 戦争やテロのない世界の実現に向けて』かもがわ出版

村上登司文 2008『平和形成力を育てよう－いきいき平和学習』京都教育大学教育社会学研究室

村上登司文 2009『戦後日本の平和教育の社会学的研究』学術出版会

「第 5 章 軍国主義への道と師範学校」（『京都教育大学 120 年史』275-376 頁）

「韓・中・日歴史教科書分析－韓国・日本教師共同副教材討論」（ハギョレ新聞 2010.3.1）